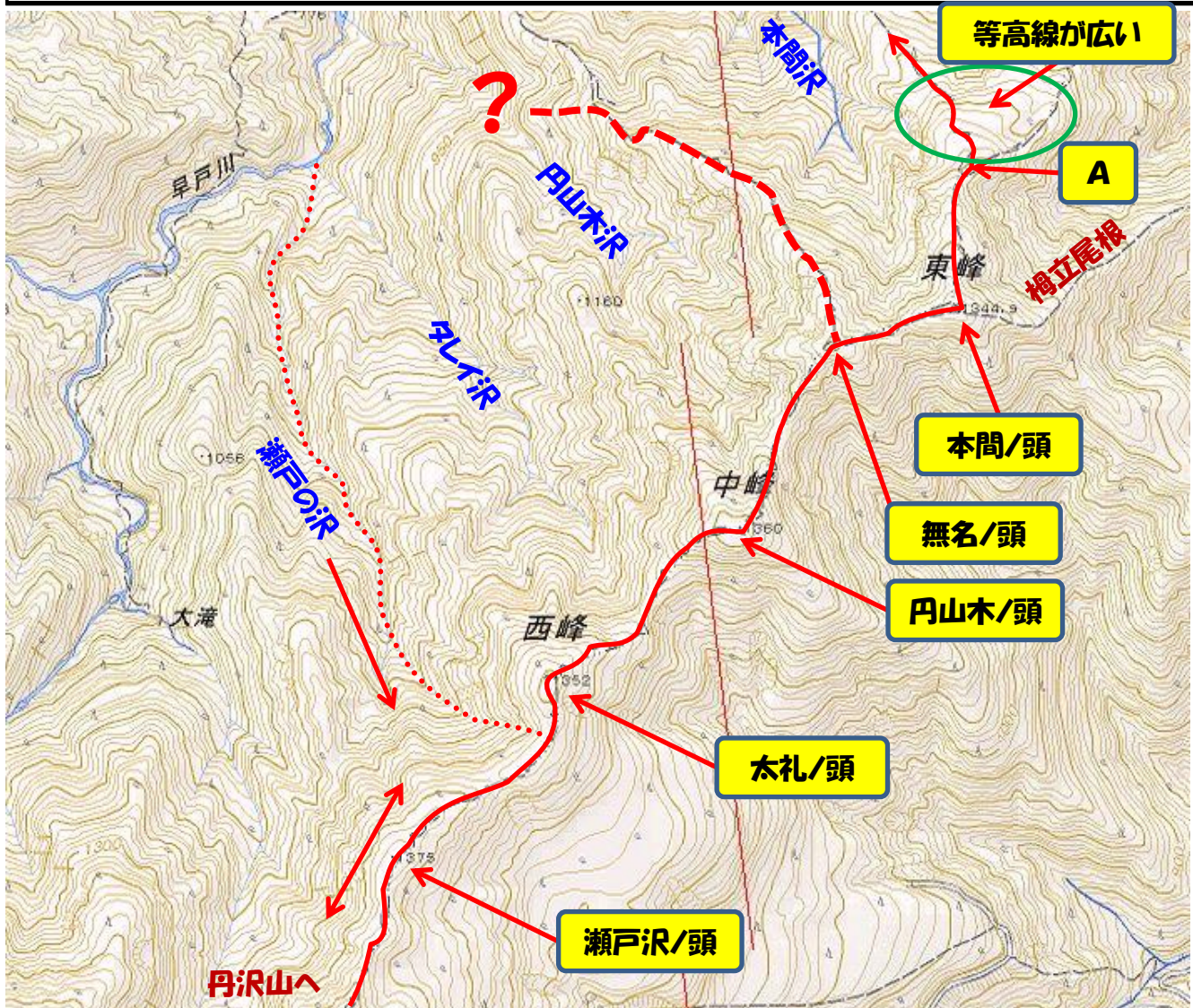


丹沢山道迷い(2003年9月)

瀬戸の沢を遡行し、尾根に出た。丹沢山を往復した後、本間ノ頭から丹沢観光センターへ下山する予定だった。太礼ノ頭を過ぎ、次のピークを本間ノ頭と「思い込み」下山したが、40分過ぎから様子が変わった。方向は間違っていないので沢を下れば、出会いの沢へ合流する？と思いさらに沢を下った。懸垂下降が必要な大きな滝が出てきたため、あきらめて引き返した。丹沢山小屋へ着いた時には、雨でずぶ濡れ。真っ暗だった。



解説

丹沢山系は、沢登りも活発である。単独で緊張して沢を登り、山頂で昼食を食べたところで、ホツとし、下山道は気が緩んだのだろう。誤ったと思われる「無名ノ頭」からも登山道はあるが、難コースというHP説明もある。尾根の下りは、同じ方向に尾根が派生しており、ピークを「本間ノ頭」と思い込み下山した場合は、間違いに気がつくのも遅れる。

「思い込み」で間違えた「無名ノ頭」で、

- ①ここから〇〇m進むと「A」の道(尾根)の分岐がある。
- ②「A」の地点からは緩やかな広い尾根になる。
- ③この付近でこれだけの広い尾根は、下山ルートしかない。
- ④もし、広い尾根や道の分岐が出てこなければ、道が違う。

という「予測」を立てたい。この予測こそが道迷いを防ぐ大切な要素である。

今回は、沢登りをした帰りの下山である。少しぐらいの沢ぐらい下れるかも？という気持ちが行動をさらに進めさせたと思われる。「戻る勇気が必要ではなく、戻る以外に道はない」と常に心にとめていただきたい。